

### スクリプト概要

本アプリケーションは複数のスクリプトを使用し、処理を行っております。

| スクリプト名                                     | 種類  | 説明   |
|--|-----|--|
| Delete_HTML_Tag_Claude_convert             | メイン | LLM (Claude) を用いて、指定したHTMLファイルをMarkdownファイルに変換 |
| Delete_HTML_Tag_Claude_validate_limits     | サブ  | 指定したHTMLファイル変換の所要トークン数の制限値チェック                 |
| Delete_HTML_Tag_Claude_convert_to_markdown | サブ  | 指定したHTMLファイルの変換結果をMarkdownファイルに出力              |

### LLM (Claude) 利用方法

本アプリケーションはAnthropic社のClaudeを用いて処理を行っております。  
ClaudeのAPI-Keyを利用するための準備作業をご説明いたします。

- Anthropic社のサイト > API から「Console log In」を選択してください。  
URL：https://www.anthropic.com/claude
- コンソールのログイン画面 > メールアドレスを入力し、画面の指示に従ってアカウント登録してください。
- 入力したメールアドレスにClaudeにアクセスするためのメールが届きます。クリックしてサインインしてください。
- サインインしたコンソール画面 > Get API Key をクリックしてください。
- API Keys の画面 > Create Key をクリックしてください。  
※クレジット購入前の場合、API-Key作成前にクレジット情報登録・クレジット購入が必要となります。
- Create API Key 画面でWorkspace、API-Keyの名前を入力してください。API-Keyが発行されます。

### コネクション設定

|          |                           |
|----------|---------------------------|
| コネクタータイプ | REST接続                    |
| URL設定    | https://api.anthropic.com |

### 可変長読み取り設定

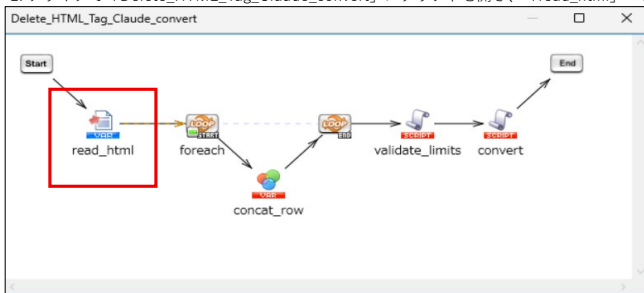
指定したファイルをClaudeにアップロードするために、「可変長読み取りフォーマット定義」を利用して、ファイルを読み取ります。  
後述の設定手順にて「可変長読み取りフォーマット定義」を作成のうえ、可変長読み取り処理コンポーネントのプロパティ設定ダイアログにて、フォーマットの設定を行ってください。

## <可変長読み取り 設定手順>

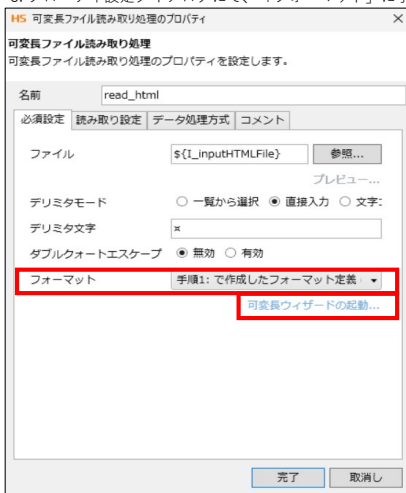
1. HULFT Squareサイト > データ形式 から「新規追加」を選択し、「可変長読み取りフォーマット定義」を作成してください。  
※ 「名前」「ワークスペース」には任意の値を設定してください



2. デザインで「Delete\_HTML\_Tag\_Claude\_convert」スクリプトを開き、「read\_html」コンポーネントを開いてください。



3. プロパティ設定ダイアログにて、「フォーマット」に手順1.で作成した可変長読み取りフォーマット定義を選択し、「可変長ウィザードの起動...」を押してください。



4. 可変長ウィザードにて、「構造定義」「列一覧」を以下の通りに設定してください。



可変長読み取り設定は以上です。

## 可変長書き込み設定

Claudeのレスポンスをファイルに書き出す際に、「可変長書き込みフォーマット定義」を利用します。  
 後述の設定手順にて「可変長書き込みフォーマット定義」を作成のうえ、可変長書き込み処理コンポーネントのプロパティ設定ダイアログにて、フォーマットの設定を行ってください。

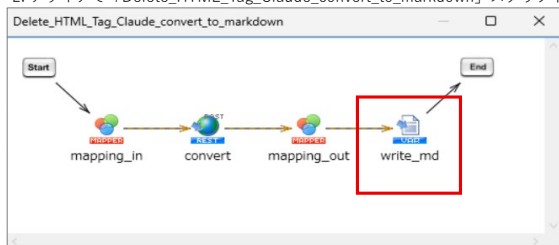
### <可変長書き込み 設定手順>

1. HULFT Squareサイト > データ形式 から「新規追加」を選択し、「可変長書き込みフォーマット定義」を作成してください。

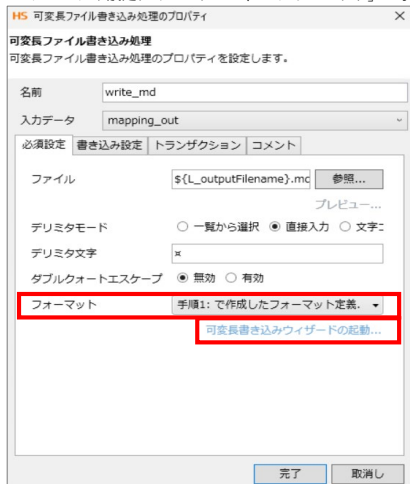
※ 「名前」「ワークスペース」には任意の値を設定してください



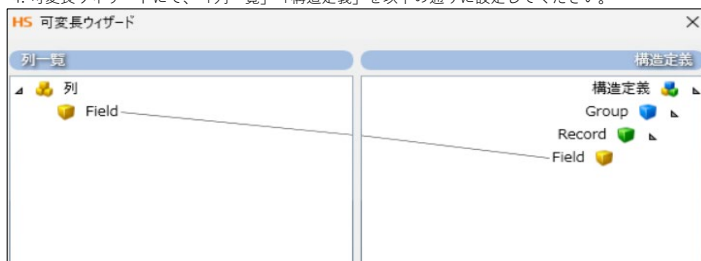
2. デザインで「Delete\_HTML\_Tag\_Claude\_convert\_to\_markdown」スクリプトを開き、「write\_md」コンポーネントを開いてください。



3. プロパティ設定ダイアログにて、「フォーマット」に手順1.で作成した可変長書き込みフォーマット定義を選択し、「可変長書き込みウィザードの起動...」を押してください。



4. 可変長ウィザードにて、「列一覧」「構造定義」を以下の通りに設定してください。

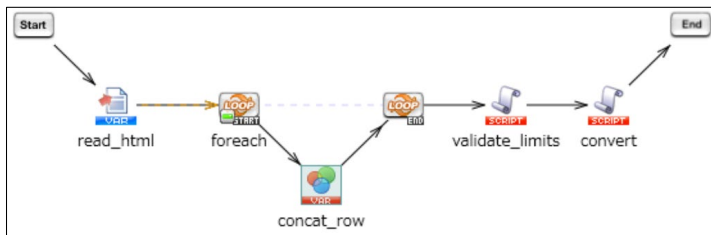


可変長書き込み設定は以上です。

スクリプト名

Delete\_HTML\_Tag\_Claude\_convert

LLM (Claude) を用いて、指定したHTMLファイルをMarkdownファイルに変換します。



初期設定項目(スクリプト変数)

| 項目名               | 必須/省略可 | 説明                                       |
|-------------------|--------|--|
| l_anthropicAPIKey | 必須     | 事前に取得したAPIキー                             |
| l_modelName       | 必須     | 利用するAIモデル名                               |
| l_ITPM            | 必須     | インプットトークン数/秒 (Anthropicのコンソールから取得するITPM) |
| l_inputHTMLFile   | 必須     | HTMLファイルのフルパス                            |

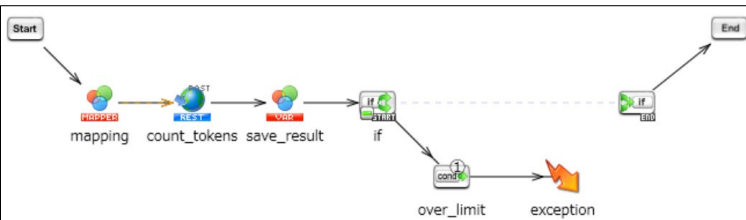
備考

スクリプトコピー後、実行前にスクリプト呼び出しコンポーネントを開き[完了]ボタンを押下

スクリプト名

Delete\_HTML\_Tag\_Claude\_validate\_limits

HTMLファイル変換の所要トークン数の制限値をチェックします。



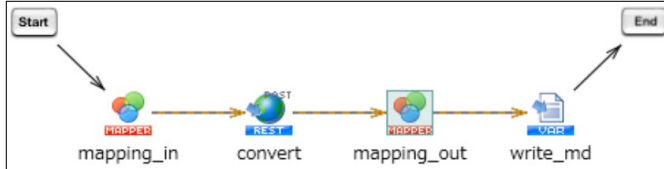
初期設定項目(スクリプト変数)

| 項目名 | 必須/省略可 | 説明 |
|-----|--------|----|
| なし  | -      | -  |

スクリプト名

Delete\_HTML\_Tag\_Claude\_convert\_to\_markdown

Claudeにリクエストした変換結果を可変長ファイルとして出力し、Markdownファイルに変換します。



初期設定項目(スクリプト変数)

| 項目名 | 必須/省略可 | 説明 |
|-----|--------|----|
| なし  | -      | -  |